

口頭申し送りを削減して見えた効果

～電子カルテによる情報共有の検討～

背景

回復期リハビリテーション病棟は入退院が多く、ADLの変化が頻繁にあるため、申し送りの内容も多い。実際に朝と夕の申し送りは延べ2時間程かかっており、ベッドサイドケアへの取り掛かり迄に時間を要している。近年、口頭での申し送りが廃止され電子カルテ上のツールを活用する病院が増えている。当病棟でも、電子カルテ上のツールを活用することで申し送りを削減して得た時間で看護ケアや、より充実した看護記録が出来るのではないかと考え、研究テーマとして取り組むことにした。

目的

患者さまへ充実した看護の提供・記録の充実・多職種との連携強化を目指す

対象・方法

対象：当病棟看護師・准看護師 計 25 名

期間：2025 年 06 月 16 日～2025 年 09 月 30 日

方法：アンケート調査（申し送り廃止前後の2回）

電子カルテ上のツールを活用した申し送り基準とマニュアルの作成

結果

- ・記録の充実、残業減少、自己にて能動的に情報収集することが習慣づいた
- ・看護ケアが十分に行えていると回答したスタッフは0%⇒13%と増加した
- ・多職種と、電子カルテ上のツールを活用しての情報共有が可能になった

考察

電子カルテ上のツールを活用したことで、訪室前の短時間でも各看護師が優先度の高い情報を得ることができ、柔軟な情報収集が可能になったと考える。

申し送りによる拘束時間が削減されたことにより、円滑にベッドサイドケアに取り掛かれるようになったことや、記録の充実・看護ケアが十分に行えていると回答したスタッフの増加に繋がったと考える。

申し送りを削減して確保できた時間を活用し、多職種と連携する場を能動的に設けることで、回復期リハビリテーション病棟としての看護ケアの充実を図ることが出来るのではないかと考える。